

# エレミヤ書と哀歌 結晶の学び

## 標語

エホバは思いやりのある神です。思いやりがあるということにおいて、エレミヤは絶対的に神と一でした。ですから、神は勝利者である預言者エレミヤを用いて神を表現させ、神のために語らせ、彼が泣くことにおいてさえ神を代行させることができました。

エレミヤ書は、イスラエルの罪と、神の激怒、懲らしめ、刑罰についての語りかけに満ちた書であり、神のエコノミーにおける彼の意図が、生ける水の源泉、源となって、彼ご自身を彼の選ばれた民の中へと分与して、彼らの満足と享受になることであるということを啓示しています。この享受の目標は、召会、神の配偶者を生み出して、それを神の増し加わり、神の拡大とし、神の豊満とならせて、彼を表現することです。

神は永遠であり、変わることができず、環境や状況によっても何の変化もなく、神の御座は神の永遠の変わらない行政の御座です。エレミヤは神の永遠の存在と彼の御座について語るとき、自分の人の感覚から出て来て、神のパーソンと神の御座に触れ、神の神性の中へと入りました。

わたしたちの陶器師としての神は主権をもって、わたしたちを創造し、神の器(神の容器)とならせて、ご自身があらかじめ定めていたことにしたがって、神ご自身を内容とさせました。人を創造することにおける神の目的は、人を神の器、土くれの容器とし、人が命であるキリストを内容として、彼で満たされるようにして、神の偉大な団体の器としてのキリストのからだを建造し、ご自身の表現を得させることでした。

羊の大牧者であるキリストは、神の心になつた牧者として、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れを牧養することによって、彼の牧養を継続しています。わたしたちは今日、主の回復の中で、キリストのからだを建造する牧養は相互の牧養であることを認識する必要があり、神にしたがって相互に牧養し、すべてを含む、優しい顧みを群れに与える必要があります。

わたしたちは神と一になるために、キリストをわたしたちの贖い、また義認となるダビデの若枝として必要とします。この事は、三一の神をわたしたちの中へともたらしめて、わたしたちの命、わたしたちの内なる命の法則、わたしたちの能力、わたしたちのすべてとならせて、ご自身をわたしたちの存在の中へと分与し、ご自身のエコノミーを遂行させます。これが新しい契約です。その中でわたしたちは神を認識し、神を生き、神格においてではなく、命と性質において神とすることができます。それは、わたしたちが神の団体の表現となって、新エルサレムとなるためです。

**思いやりのある神の思いやりのある預言者であるエレミヤ**

聖書：エレミヤ 1:1, 4-8, 10, 18-19, 4:19, 9:1, 10, 13:17

- I. エレミヤは祭司に生まれましたが、神によって召されて、イスラエルの国に対して預言者になっただけでなく、すべての諸国民に対しても預言者となりました。ですから、彼は祭司・預言者でした——エレミヤ 1:1, 4-8。
- II. エホバは諸国民と諸王国の上にエレミヤを立て、引き抜きそして打ち壊させ、滅ぼしそして倒れさせ、建てそして植えさせました——エレミヤ 1:10:
- A. 引き抜き、打ち壊し、滅ぼすことは、エホバの倒すことですが、建て、植えることは、エホバの高く上げることです。
- B. これはエレミヤの名の二つの意義、すなわち「エホバは高く上げる」と「エホバは倒す」に符合します。
- III. エホバはエレミヤを、全地に対して、ユダの王たちに対して、その首長たちに対して、その祭司たちに対して、この地の民に対して、要塞のある町に、鉄の柱に、青銅の城壁にしました。彼らはエレミヤに対して戦いましたが、彼に勝つことはありませんでした——エレミヤ 1:18-19:
- A. 地上には、神と、神に反対し神に抵抗する者との間に、常に戦いがあります——エペソ 6:12。
- B. 神はご自身で直接戦うのではなく、神によって遣わされた神のしもべたちを通して戦います——I テモテ 1:18, 6:12, II テモテ 4:7。
- C. 神は神の軍隊(エレミヤという名の青年)を遣わして、神に反対する者たちと戦いました:
1. エレミヤは神によって装備されて、要塞のある町、鉄の柱、青銅の城壁になるまでになりました——エレミヤ 1:18。
  2. エレミヤ(エホバの一人の軍隊)と戦った者たちは、実はエホバと戦っていたのです——エレミヤ 1:19 前半。
  3. エレミヤを打ち破った人はだれもいませんでした。なぜなら、エホバが彼と共におられたからです——エレミヤ 1:19 後半。
- IV. エレミヤは神のために語る勝利者でした——エレミヤ 1:9-10, 2:1-2:
- A. 予表の時代において、勝利者は預言者でした。すべての真の預言者は勝利者でした。
- B. 神の民の大部分が荒廃していたとき、何人かが立ち上がって神の勝利者となり、神によって打ち立てられた証しを維持する必要がありました。
- C. 預言者はまず神の託宣を顧慮し、その託宣に基づいて、ある程度まで、神の権威を行使しました。それは、王ダビデと預言者ナタンに見られるよう

にです——サムエル下 7:1-17. 12:1-15。

- D. 啓示録第 2 章と第 3 章の勝利者は、預言者の予表の成就です。
- E. エレミヤは勝利者として、反対する証しでした：
1. イスラエルの子たちは荒廃し、エレミヤは神によって召されて反対する証しとなりました——エレミヤ 27:1-15。
  2. 神の民は、神の御前で自分の罪が深いことを認識していませんでした。また、神がバビロンを用いて彼らを罰し、彼らをバビロンに捕らえて行くようすでに定めていたことを、彼らは認識していませんでした——エレミヤ 15:12-14。
  3. イスラエルがそのように混乱した状況へと落ち込んでいたので、勝利者エレミヤは反対する証しとなって、エホバが彼に与えた言葉を語り、偽預言者に反対しました——エレミヤ 27:16—28:17。
- V. エレミヤ書は、神の思いやりに加えて神の義を語っています。これがこの書の特別な特徴と立場です——エレミヤ 9:10-11. 23:5-6. 33:16：
- A. わたしたちの神は思いやりのある神であり、あわれみと同情に満ちていますが、絶対的に義です——エレミヤ 9:10-11. 23:6。
- B. エレミヤ書によれば、神の愛は神の柔和な関心、あわれみ、同情を含んでいます。神は彼の選びの民イスラエルを懲らしめているときでさえ、彼らに対してあわれみがあります——哀 3:22-23。
- C. エレミヤ書第 9 章 10 節から 11 節と 17 節から 19 節の言葉は、イスラエルがエホバの矯正を受けることについてエホバの感覚を表現しています：
1. エホバはイスラエルを罰していましたが、彼らに対してなおも同情的でした。
  2. 18 節の「わたしたち」と「わたしたちの」という言葉は、エホバがご自身を、苦しんでいる民に結び付け、彼らの苦しみの中で彼らと一であったことを示します。
  3. エホバご自身が、彼の民に同情して泣いていました。
- VI. エレミヤ書はまた一つの自叙伝です。この中でエレミヤはわたしたちに、彼の状態、彼という人、彼の感覚を告げて、彼の優しい心を表しています：
- A. 神は優しく、愛し、あわれみ深く、義です。臆病な若者であるエレミヤは、神によって起こされて神の代弁者となり、神のために語り、神を表現しました——エレミヤ 3:6-11. 4:3-31. 32:26-27. 33:1-2。
- B. エホバは思いやりのある神です。思いやりがあるということにおいて、エレミヤは絶対的に神と一でした。ですから、神は預言者エレミヤを用いて

エレミヤ書と哀歌  
メッセージ 1 (続き)

神を表現させ、神のために語らせ、神を代行させることができました——エレミヤ 2:1—3:5. 4:19. 9:1, 10。

C. エホバは入って来て彼の偽善的な礼拝者を矯正し、そしてエレミヤはエホバの矯正に反応しました。預言者の反応はとても柔和で、同情的で、あわれみがありました——エレミヤ 8:18-19, 21-22. 9:1-2. 10:19-25。

D. エレミヤは神に代わって泣きました。彼の泣くことは神の泣くことを表現しました——エレミヤ 4:19. 9:1. 13:17:

1. エレミヤは泣くことにおいて神を代行しました——エレミヤ 9:10。
2. わたしたちは、エレミヤが泣くことの中で神が泣かれたとすることができます。なぜなら、エレミヤは泣くことの中で神と一であったからです——エレミヤ 13:17。

E. エレミヤはしばしば泣き、号泣さえしたので、泣く預言者と呼ばれています——哀 1:16. 2:11. 3:48:

1. 神は彼の民のゆえに悲しみ、傷つきましたが、これらの感覚を持つ者を地上で見いださなければなりませんでした。
2. 神の霊がその特別な者であるエレミヤに臨んで、神の感覚をエレミヤの霊の中に置いたとき、その預言者は神の悲しい感覚を発表することができました。
3. わたしたちはエレミヤ書を読むとき、エレミヤは泣いたにもかかわらず、彼の感情は訓練されていたのを感じることができます——エレミヤ 4:19. 9:1, 10. 13:17。
4. エレミヤの悲しんで泣く感情は、訓練され抑制されていたので、神は彼に臨み、彼を用いて神の心の中にあった悲しい感覚を表現させることができました。

VII. 神がわたしたちを通して完全に表現されるために、わたしたちは霊的な感情を持ち、互いに思いやりを持ち、涙をもって神に仕えることができるようになる必要があります——ヤコブ 5:11. 出 34:6. 詩 103:8:

A. 霊の人は感情に満ちています。わたしたちは霊的であればあるほど、わたしたちの感情はますます豊かになります——I コリント 4:21. II コリント 6:11. 7:3. 10:1. 12:15:

1. わたしたちは、主がわたしたちの上で働いて、わたしたちの感覚が細やかで優しくなるに至る必要があります。
2. 毎回、神がわたしたちの上で働き、わたしたちを懲らしめ、わたしたちを対処するとき、わたしたちの感覚はさらに細やかになり、さらに鋭敏

になります。これは、外なる人を砕くことでの最も深い学課です——Ⅱコリント 4:16。

B. 召会生活の中で、わたしたちは互いに思いやりがある(情け深くある——tenderhearted)必要があります——エペソ 4:32:

1. わたしたちは信者仲間を裁き、罪定めするべきではなく、彼らに対して親切で思いやりがあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださいのように、彼らを赦すべきです——ルカ 6:37. エペソ 4:32。
2. わたしたちがキリストをわたしたちの命の供給として経験すればするほど、わたしたちの心はますます優しく(tender)なります。そして、わたしたちは思いやりがある(tenderhearted)とき、他の人を赦すでしょう。

C. 使徒パウロは涙をもって主に仕え、涙をもって聖徒たちを訓戒しました——使徒 20:19, 31. ピリピ 3:18:

1. もしわたしたちがどのように泣き、涙を流すかを知らないなら、あまり霊的ではありません。
2. わたしたちは霊の中で生き、魂を器官として用いるとき、涙をもって主に仕えて、聖徒たちを訓戒することができます——使徒 20:19, 31。

D. 「多くの患難と心の憂いから、多くの涙をもって」、パウロはコリント人に書き送りました——Ⅱコリント 2:4:

1. パウロの表現は柔和で(tender)、供給する命の親密な関心に満ちていました——Ⅱコリント 11:28. 12:15。
2. Ⅱコリント第7章でパウロは、コリント人に対する深く、柔和で、親密な関心を伝えました。彼の言葉はとても人に触れました——Ⅱコリント 7:2-3。
3. パウロの表現は柔和であり、親密な関心に満ちていたため、力と衝撃力があり、信者たちに深く触れることができました。

E. 召会生活の中で、わたしたちがバカ(涙を流す)の谷を通るとき、神はこの谷を泉とします。この泉はその霊です——詩 84:6. ヨハネ 4:14. 7:38-39:

1. わたしたちはシオンへの大路上で涙を流せば流すほど(詩 84:5)、ますますその霊を受けます。わたしたちは涙を流しているとき、その霊で満たされ、その霊はわたしたちの泉となります。
2. わたしたちが流した涙はわたしたちのものですが、これらの涙は泉をもたらす、泉は秋の雨、すなわち祝福としてのその霊となります——ゼカリヤ 10:1. ガラテヤ 3:14. エペソ 1:3。